

2022年「国際ジェンダー学会研究活動奨励賞」研究活動報告書

1. 提出日：2023年5月26日

2. 提出者氏名：新倉久乃

3. 申請した研究テーマ：

タイ女性の高齢期のライフプランへの来日経験の影響：在日タイ女性と帰国したタイ女性の語りから

4. 研究活動報告

2022年「タイ女性の高齢期のライフプランへの来日経験の影響：在日タイ女性と帰国したタイ女性の語りから」をテーマに、本研究活動奨励賞によって実施した調査と研究活動を報告する。

現代は日本もタイも長寿社会が実現し、長い高齢期をいかに過ごすかという「高齢期のライフプラン」が重要になっている。今回の研究では、在日タイ女性が、タイに本帰国してライフプランの再構築に取り組む時に、高齢期を支える経済的と社会的基盤と家族の中のジェンダー役割の関係に注目した。

高齢期の経験は、身体的のみならず社会的側面が指摘されるが、社会的側面は地位や役割の変化に基づき社会生活の変化として経験される。そこで本研究での問いは、日タイ二カ国の間をトランスナショナルに生きてきた在日タイ女性が、高齢期の生活基盤をどちらの国に置くか、選択した場所でこれまでの来日経験の影響によって、どのようにライフプランを再構築するかとした。

2022年までに実施した50代から70代の在日30年前後のタイ女性5人を対象とした日本でのインタビューに加え、今回は、2019年以降コロナパンデミックによって中断していたタイでの調査を実施した。調査協力者はコロナ禍の2020年にタイに本帰国した70代のタイ女性であり、筆者は、女性が娘と同居している自宅にホームステイをしてインタビューと参与観察を行った。

これまでの日本の調査では、壮年期には日本で子育てと就労し、高齢期に継続して日本に生活基盤を置くことを選択した女性は、その理由に、彼女たちの日本国籍の子や孫は日本に定着していると語っていた。一方、今回のタイ調査の相違点は、女性の娘は前婚の子でタイ国籍であった。その娘は日本に留学し就労経験があり、永住者となっているが、現在はタイに帰国して日系企業に再就職している。また今回のタイ調査の協力者は、壮年期には日本で子育てと就労をしてきたが、13年前に夫と死別していた。その後、寡婦年金を経済基盤に一人暮らしをして、タイ人集住地域でレストラン勤務や、同国人の福祉相談に同行ボランティアをしてきた。そのため、タイ人、日本人に知人が多かった。帰国の動機は体調不良で、ケアする娘や周囲のタイの友人に迷惑をかけないことと、寡婦年金がタイでの最低限の経済的基盤になるということであった。タイに本帰国後、体調は安定し、現在はタイを本拠地としてライフプランを再構築する段階となっていた。タイへの本帰国とライフプラン再構築の要素について、以下のような知見を得た。

これまでの日本での経験を生かす：壮年期に日本での就労やボランティアで結ばれた同国人との紐帯は強い。SNSやライン電話で連絡を取り合い、タイにいても日本で知り合った在タイの知人とスモールビジネスや日本での年金受給について相談をしている。タイの家族関係：高齢者として「ケアされる」より、孫の日常に世話「ケアする」祖母役割を果たしていた。娘は夫と別居しているが、日系の会社で安定した

収入があり自立している。娘の勤務状況では子育てにかけられる時間が短く、女性の祖母役割が欠かせない。タイのコミュニティの中の位置：娘と同居する地域は娘の通勤に便利な場所であり、女性の出身地ではなく地域的なつながりはない。日本では自転車で移動していたが、タイの交通事情では自転車やバイクでの移動は危険で、車の運転ができないため移動の不自由さを感じていた。移動においては「ケアされる」立場になる。ライフプランの再構築とジェンダー役割：健康回復とともに日本での生活に戻りたいと、自分の選択に迷う側面もあった。一方、現在は孫のケアに専念しているが、今後、感情的な側面のみならず経済的にもケアする祖母役割を果たしたいと考えている。女性のライフプランは、タイ中部に所有するエビ養殖場から得てきた収入で、日本で知り合ったタイ女性のタイ北部の果実畑を購入し、その農園経営収入により孫によりよい教育機会を与えたいと考えていた。

今回の調査では以上の諸要素から、タイでのライフプランの再構築において、女性は1) 地縁がなく移動が不自由な土地で、孫の世話という「祖母役割」のみに埋没することを望んでいない。2) 壮年期に日本で築いた人間関係とタイでの資産運用、そして土地勘のある出身地近郊での農園経営によって、新たな「祖母役割」として経済的発言権を持とうとしていた。しかし、成人し経済的自立をしている娘のライフプランに大きな影響を与える内容であった。以上の二点からライフプランを再構築は、「ケアされる」高齢者像でなく、家族を「ケアする」高齢者を目指していた。これらは、長期にわたる高齢期という新たなステージが実現したことによって生まれた現代的課題である。

今後、この長い高齢期というライフステージを、来日経験から得たトランスナショナルな社会的、経済的資源と、家族の中での「ケア」の多様な側面についてジェンダーの視角から分析を進めていく。そして日タイのコミュニティの中のジェンダーや、日タイの社会保障という経済的基盤にも焦点をあてて分析を行う。成果報告は、今年度はISA で在日タイ女性の高齢期と日本の社会保障をテーマに行う。加えて、国際ジェンダー学会では2023年の大会で、来日経験のある在タイ女性のライフコースの中での帰国時期とライフプランとジェンダー役割について、帰国時期を壮年期と高齢期として比較して報告したいと考えている。